

2016年10月27日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証・名証第一部

2017年3月期第2四半期の連結決算について

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:永井浩二、以下「当社」)2017年3月期の第2四半期(2016年7-9月、以下「当四半期」)の連結決算の概要をお知らせします。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は3,470億円、税前利益は818億円、当社株主に帰属する当期純利益は612億円でした。

また、2017年3月期上半期(2016年4-9月、以下「当上半期」)の収益合計(金融費用控除後)は6,855億円、税前利益は1,445億円、当社株主に帰属する当期純利益は1,080億円となりました。

2016年9月末日を基準日とする配当の支払いについては、1株あたり9円とします。配当金の支払い開始日は2016年12月1日の予定です。

グループCEO永井浩二のコメントは次のとおりです。

「当四半期は、前四半期比、前年同期比ともに増収増益を達成しました。また当上半期についても、欧州・米州ビジネスの戦略的な見直しによって海外の収益性が改善したこと等により、高い利益水準を確保しました。

営業部門は前四半期比で増収増益となり、また、ビジネスモデルの変革に継続的に取り組むことにより、投信純増や投資一任純増を積み上げることができました。アセット・マネジメント部門は、市況の回復やETF等への資金流入により運用資産残高は増加しましたが、一時要因に伴う収益等があった前四半期比で減収となりました。ホールセール部門は、堅調なビジネスにコスト削減効果も加わり、前四半期に引き続き高水準の税前利益をあげました。

当社は今後もスローガン『Vision C&C』の下、厳しい環境の中でも持続的な成長が実現できるよう自らの変革に果敢に挑戦し続け、『アジアに立脚したグローバル金融サービス・グループ』としての揺るぎない地位を確立していきます。」

当上半期および当四半期決算のポイント

● 当上半期

- 当上半期の当社を取り巻く環境は、昨年と比較すると、全体的に厳しいものとなりました。国内では円高・株安の影響があり、海外でもイギリスのEU離脱をめぐる動きや米国大統領選挙などの不透明感もあり、投資家は慎重な投資スタンスを崩していません。このような環境を背景に、当社の全社収益は、前年同期比10%の減収となりました。
- 全社の税前利益は1,445億円、前年同期比15%の増益となりました。ホールセール部門の欧州・米州のビジネスを戦略的に見直し、一段のコスト削減を進めた結果、収益性が大幅に改善したためです。全社の海外合計で400億円の黒字を計上し、実効税率が25%になったことで、当社株主に帰属する当期純利益は1,080億円と、2年連続で1,000億円を超える高水準になりました。

● 当四半期

- 営業部門の利益水準が回復したことに加え、3部門以外の損益が改善したことで、全社の税前利益は前四半期比30%増の818億円となりました。当社株主に帰属する当期純利益は612億円、前四半期比で31%の増益となりました。
- 海外合計の税前利益は、コスト削減の取組みが功を奏し、2四半期連続で黒字となり、当四半期は232億円、前四半期比37%の増益でした。
- 2016年9月末現在の連結貸借対照表の資産合計は43兆円、株主資本は2.6兆円でした。2016年9月末における速報値(バーゼル3基準)で、連結Tier 1比率は18.7%、連結普通株式等Tier 1比率は18.0%となっています。

	2017年3月期 第2四半期	前四半期比	前年同期比	2017年3月期 上半期	前年 同期比
収益合計 (金融費用控除後)	3,470億円	+3%	+3%	6,855億円	△10%
税前利益	818億円	+30%	4.1倍	1,445億円	+15%
当期純利益	612億円	+31%	+31%	1,080億円	△6%

当四半期の各部門の状況

● 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は862億円、税前利益は144億円でした。市場環境は一時期よりは落ち着きを取り戻しているものの、お客様の慎重なスタンスは依然として続いています。

低金利が続く中、比較的高い利回りが見込めるREITや海外の高利回り債券に投資する投信に資金が向かっているほか、長期的な成長が期待できるインド株なども注目を集めました。

また、年率換算したストック収入は710億円と、前四半期並みの水準を確保しました。お客様のニーズを丁寧にヒアリングして、資産設計やライフプラン・サービスを提供した結果、ストック収入の源泉となる投資一任は639億円の純増、残高は2兆2,700億円程度まで積み上がりました。

	2017年3月期 第2四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	862億円	+3%	△26%
税前利益	144億円	+66%	△61%

● アセット・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)は213億円、税前利益は74億円でした。前四半期に計上した配当収入や一時的な収益等がなくなった影響で、前四半期比で減収減益となりました。

9月末の運用資産残高は、ETFや投資顧問等への資金流入や市況の回復により、3四半期ぶりに増加し、38.5兆円になりました。

米国で高利回り債券を中心に運用を行っているノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント(NCRAM)では、中長期での高いパフォーマンスが評価されて資金流入が継続しており、ドル建ての運用資産残高は、この1年間で43%増加しました。

	2017年3月期 第2四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	213億円	△18%	△7%
税前利益	74億円	△39%	△12%

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益合計(金融費用控除後)は1,799億円、税前利益は393億円でした。前四半期比では減収でしたが、堅調な収益レベルを維持しました。

- グローバル・マーケットでは、好調だった前四半期から減速したものの、フィクスト・インカムでは金利やスプレッド・プロダクトを中心に健闘しました。エクイティでは、アジアが増収となるも、欧米ビジネスの戦略的見直しや、市場動向の影響から減速しました。
- インベストメント・バンキングでは、日本は株・債券共に大型の引受案件があったことに加え、為替や金利のヘッジ等のソリューション・ビジネスも貢献し、前四半期比で増収となりました。海外は、欧州・米州で好調なモメンタムを維持し、前四半期並みの収益を確保しました。

	2017年3月期 第2四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	1,799億円	△6%	△7%
税前利益	393億円	△16%	4.6倍

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2016年10月27日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<http://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2017年3月期第2四半期ならびに上半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2016年9月30日現在のデータに基づき作成されています。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。